

職員による自己評価

A 環境面

- ・高年齢児童の増加に伴い、身体の発達により一部の活動ではスペースの制約を感じることがあります。
- ・施設の玄関までに階段があり、バリアフリー対応が十分でないため、移動に配慮が必要な場面があります。

B 児童への支援内容

- ・子どもたちが多様な経験を積めるよう、レクリエーションや行事を通じて発達を促す機会を計画的に提供しています。
- ・社会性の向上を目的に、買い物学習や子ども会議を実施し、実践的なコミュニケーション力や意思決定力の育成を支援しています。

C 関係機関との連携

- ・ケース会議には毎回参加し、区役所のケースワーカーや児童相談所と密に連携しながら、支援計画の適切な運用に努めています。
- ・送迎時には必ず学校での児童の様子を確認し、学習面・生活面での状況を把握するようにしています。
- ・気になる点が生じた際には、速やかに学校へ連絡を取り、状況の確認および適切な対応について協議しています。

D 保護者への説明責任・信頼関係

- ・送迎時や連絡帳を通じて、児童のその日の様子や支援内容を詳細に伝え、家庭との連携を密にしています。
- ・月間通信を配布し、児童の成長や支援の進捗を定期的に報告しています。
- ・SNSを活用し、日々の活動状況を発信することで、保護者への情報共有を充実させています。

E 非常対応

- ・年2回の避難訓練を実施し、その実施状況については連絡帳や通信を通じて保護者へ詳細に報告しています。

保護者による評価

A環境面

- ・玄関までの階段がある。
- ・職員さんも日にたくさんいて安心できる

B 児童への支援内容

- ・色々な行事などを企画して下さり、楽しく利用できている。
- ・いろんな所に連れて行ってもらったり、いろいろな体験させていただいている

C 事業所からの情報発信

- ・Web 連絡帳で毎日写真を使って報告をいただけてわかりやすいし安心できる
- ・予定表を見て子供たちが通う日を楽しみにしている
- ・毎日 SNS で活動報告しているのも安心できる

D 非常対応

- ・マニュアルも配布され、避難訓練も行なってくれている。

事業所内での分析

【共通点】

- ・日々のレクリエーションや行事の豊富さ
- ・SNS での配信で活動を確認いただけている
- ・ご家族への細かい報告や対応
- ・写真つき連絡帳にして、表情なども確認できて安心材料になっている

【相違点】

- ・特になし

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ① 楽しさを重視した発達支援プログラム
日々のレクリエーションや行事では、児童が楽しみながら積極的に関われる環境を整え、多様な経験を通じて発達を促す機会を提供しています。
- ② 個別最適化された療育の実施
児童一人ひとりの特性や発達段階に応じた課題を設定し、個別支援計画に基づいた適切なアプローチを行うことで、成長に寄り添った支援を実践しています。
- ③ 保護者との連携強化と透明性のある情報共有
SNSを活用し、日々の活動を発信することで、保護者が児童の成長をリアルタイムで確認できる仕組みを整え、支援の透明性を高めています。
- ④ Web 連絡帳による迅速かつ詳細な情報共有
Web 連絡帳を導入し、日々の支援状況や児童の様子を記録・報告することで、保護者とのリアルタイムな情報共有を可能にし、家庭との連携を強化しています。

事業所の改善点

- ・ 父母会の実施

事業所の改善への取り組み

特に大きな改善点は見当たらなかったが、より子供達の成長に繋げていけるような支援を提供し、親御様には安心してご利用いただけるようにコミュニケーションを多く取っていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

昨年度いただいたご意見から改善を実施できた。

この機会にいただいたことで、すべてのことに利用者目線を意識できるようになった。

事業所名 放課後等デイサービス ジュン あさひ
担当者 高橋 絵里